

### 【委員の主な発言】

- ・水質調査については重要な項目になると思われ、一律に全体で比較できるようにする必要がある。
- ・過去の調査地点を利用するのか、新しい地点を追加するのかは、科学的な立場で必要十分な地点数等を検討したい。
- ・ダムが存在することにより、ダムを経て水質がどのように変化しているか、ダム湖の水質だけでなく、上流の水質データも必要である。
- ・河口閉塞については、斐伊川放水路工事前後の地形変化を見る必要がある。砂州を構成する堆積物の粒度分布や、砂の由来を知るために鉱物組成の情報もあると良い。
- ・生物調査については、調査数は多いが上下流をトータルに行ったものはなく、調査期間や時期、地点等がバラバラで比較評価が難しい。比較できるものは何かを整理する必要がある。
- ・シミュレーションは、何を目的にするのかを明確にしたうえで行う必要がある。
- ・調査項目毎に、上流から下流の地点順に並んだグラフがあると議論しやすい。
- ・どんな調査項目が必要か、シミュレーションで何を知るのかなど、目的を明確にするため、相関図を作成して情報を整理すると良い。